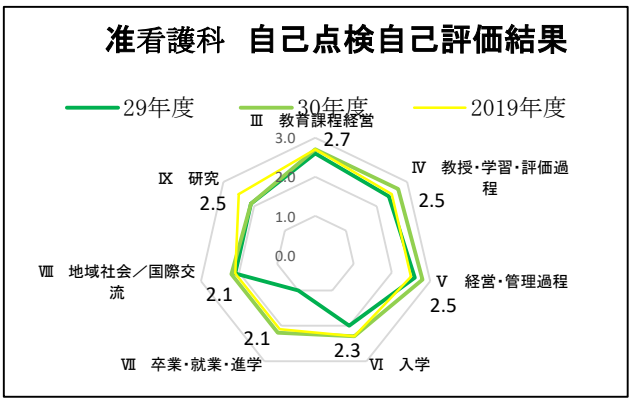
平成29・30・令和１年度　自己点検自己評価結果　准看護科

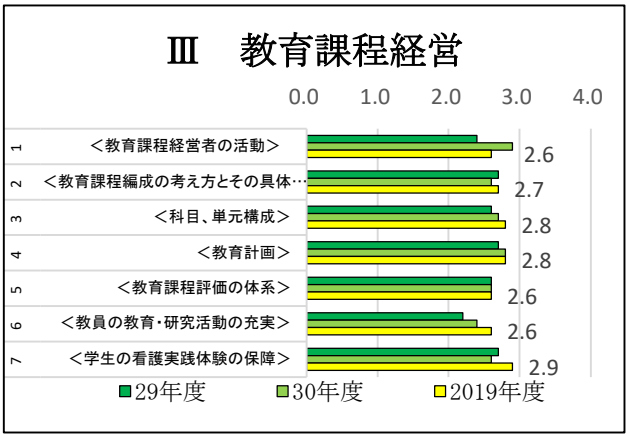
〈評価基準〉　３：当てはまる　２：やや当てはまる　１：当てはまらない

		29年度	30年度	2019年度
Ⅲ	教育課程経営	2.6	2.7	2.7
Ⅳ	教授・学習・評価過程	2.4	2.7	2.5
Ⅴ	経営・管理過程	2.6	2.8	2.5
Ⅵ	入学	2.0	2.3	2.3
Ⅶ	卒業・就業・進学	1.0	2.2	2.1
Ⅷ	地域社会／国際交流	2.1	2.2	2.1
Ⅸ	研究	2.1	2.1	2.5



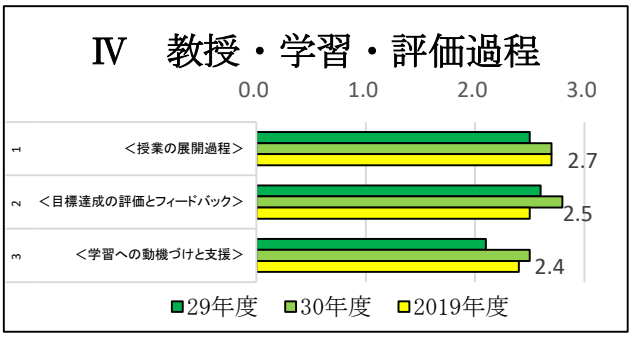
Ⅲ　教育課程経営

		29年度	30年度	2019年度
1	＜教育課程経営者の活動＞	2.4	2.9	2.6
2	＜教育課程編成の考え方とその具体的な構成＞	2.7	2.6	2.7
3	＜科目、単元構成＞	2.6	2.7	2.8
4	＜教育計画＞	2.7	2.8	2.8
5	＜教育課程評価の体系＞	2.6	2.6	2.6
6	＜教員の教育・研究活動の充実＞	2.2	2.4	2.6
7	＜学生の看護実践体験の保障＞	2.7	2.6	2.9
	平均	2.6	2.7	2.7



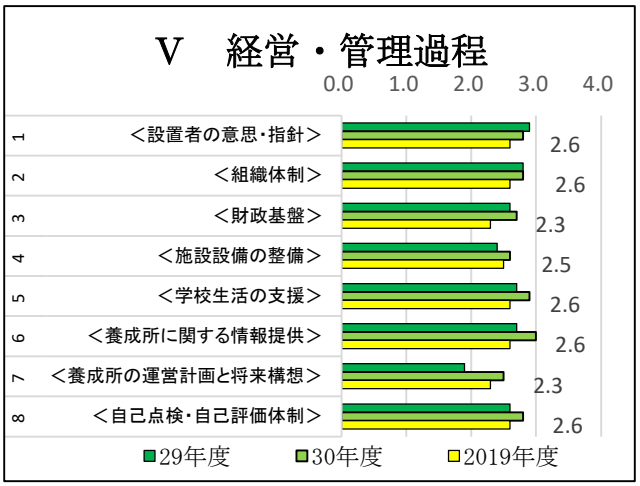
Ⅳ　教授・学習・評価過程

		29年度	30年度	2019年度
1	＜授業の展開過程＞	2.5	2.7	2.7
2	＜目標達成の評価とフィードバック＞	2.6	2.8	2.5
3	＜学習への動機づけと支援＞	2.1	2.5	2.4
	平均	2.4	2.7	2.5



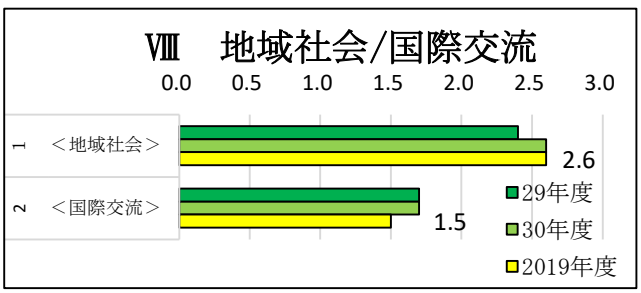
Ⅴ　経営・管理過程

		29年度	30年度	2019年度
1	＜設置者の意思・指針＞	2.9	2.8	2.6
2	＜組織体制＞	2.8	2.8	2.6
3	＜財政基盤＞	2.6	2.7	2.3
4	＜施設設備の整備＞	2.4	2.6	2.5
5	＜学校生活の支援＞	2.7	2.9	2.6
6	＜養成所に関する情報提供＞	2.7	3.0	2.6
7	＜養成所の運営計画と将来構想＞	1.9	2.5	2.3
8	＜自己点検・自己評価体制＞	2.6	2.8	2.6
	平均	2.6	2.8	2.5



Ⅷ　地域社会／国際交流

		29年度	30年度	2019年度
1	＜地域社会＞	2.4	2.6	2.6
2	＜国際交流＞	1.7	1.7	1.5
	平均	2.1	2.2	2.1



2019 年度　重点課題に対する評価　准看護科

１．「１年次のポートフォリオとチューター制を通して'考える力'の育成」

①学生が自己成長できる基盤として、主体的に学習する態度を身に付けることができ、職業人として責任ある行動がとれるようになる。

②看護に対する興味・関心を引き出すことができ、２年次の実習に意欲的に取り組むことができる。

教員の課題１に対する目標評価は４段階評価で平均 2.6 であり、２年生の実習指導や１年生の技術指導等に時間を要した。

１年次の基礎看護実習Ⅰでは、昨年の平均点が 67.8 点、今年が 79.7 点で 11.9 点 up している。基礎看護実習Ⅰの評価項目は主に看護職としての態度面の評価であるが、チューター教員と実習の担当教員で連携を図ったことが、学生の不安や悩み等に対して個別の相談がしやすく、安心感につながったと感じている。また１年次最後のポートフォリオ発表会において、学生各々が１年間の自己の成長を表現でき２年次の課題に取り組む意欲をみせていた。

１年次の学科成績（平均）は、昨年が 75.4 点、今年は 77.6 点で 2.2 点 up している。また平均点が 90 点以上の学生が 17％と多く、看護に対する興味・関心を引き出すことができたと考える。

２．「学生の基礎看護技術力の向上を目指す」

①協同学習法で、主体的に看護技術を習得する姿勢を身に付ける。

②基礎看護技術Ⅵ、Ⅶ（総合演習）で実習の基盤となる看護技術を習得する。

③実践活動外学習の活用

１年生の基礎看護技術Ⅵ（総合演習）における評価の平均点は、昨年が 66.9 点で今年が 70.7 点、3.8 点 up したが、２年生の基礎看護技術Ⅶ（総合演習）における評価の平均点は昨年が 86.3 点、今年は 78.3 点で 8 点も down した。このことから２年生の技術習得に課題が大きかったと言える。

また今年も「日常生活の援助」技術教育において協同学習を取り入れ、学生が意欲的に技術習得しようとする姿勢を確認でき、効果的な学習法であることを実感できた。後期にある「診療の補助」技術では、定期試験が多くなり、学生の学習時間を確保するために共同学習を取り入れることができなかったため、講義時期を考慮して学習計画を立てる必要があった。

③については、実習で経験する技術学習及び練習のため実践活動外学習を取り入れて 2 年目になる。教員の評価は 4 段階評価で平均 2.8 であったが、学生はこの時間があることで実習の振り返りができ、実践活動外学習における学生の評価は良く、教員からの指導だけでなく、メンバー間でも学びを共有したりして理解を深めることに繋がったと考える。

3．「教員の自己研鑽のため、日本看護学校協議会・学会にて研究発表を行う」

日々の教育活動や学生の個別指導に時間を要し、研究をまとめる時間を捻出できず実施できなかった。

4．「福岡県准看護師試験全員の合格の継続と進学率 UP を目指す」

今年の卒業生は 24 名（最少）で全員合格を達成できた。進学率は 62.5％で昨年と比して 7.5％down した。一部の学生の向上心がなかなか育たず、看護へのさらなる興味・関心を高めることができなかった。引き続き、全員合格を目指すとともに、看護への興味関心を高め、進学率 up を目指していきたい。

5．「働き方改革の実現」

教員評価は 4 段階評価で 3 であり、意識の高まりが示唆される。

2020 年度　重点課題　准看護科

１．学生が講義や実習、「成長・目標ファイル」を通して、看護に対する自分の思いや考えを表現でき、目標をもって主体的に取り組めるように支援する。

①チューター制や役割・担当による面接を行い、学習状況や看護への興味関心の程度を把握して学習支援を図る。

②学習面や学校生活の問題においては、教員間の連携を図り、問題解決や円滑な学校生活の環境づくりに取り組む。

③看護に対する思いや考え、また実践後の喜びや楽しみを学生の語りの中から引き出し、新たな目標につながるように支援する。

２．基礎看護技術の基本となる「安全・安楽」と「感染防止」に取り組み、根拠に基づいた知識や技術を身に付けることができる。

①基礎看護技術における科学的な根拠を理解して基本にもとづいた看護行為が実施できる。

②感染症とその対策について理解し、学校生活（講義・演習）や臨地実習で実践できる。

３．福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率 up（70％）を目指す。